

「日本語教育の参照枠」取りまとめに向けた検討項目（案）

日本語教育小委員会では、「日本語教育の参照枠」の策定に向けて、令和元年より審議を開始し、令和2年11月に一次報告、令和3年3月に二次報告を取りまとめた。さらに、言語能力記述文については日本語教育関係者の協力を得て令和2年度後半に量的検証を実施するとともに、漢字については基礎漢字に関する調査研究を実施した。これらを踏まえ、本年度は一次報告及び二次報告を併せた最終報告を国語分科会において取りまとめることとしている。

「日本語教育の参照枠」取りまとめに向けた主な検討項目

- 「日本語教育の参照枠」の構成
- 漢字の扱いについて
- 令和4年度以降の検討課題

○「日本語教育の参照枠」構成案

はじめに

I 「日本語教育の参照枠」の検討経緯

- 1 現状
 - (1) 日本語教育の標準や参照枠に関する現状
 - (2) 日本語能力の評価に関する現状
- 2 課題
 - (1) 日本語教育の標準や参照枠に関する現状
 - (2) 日本語能力の評価に関する現状
- 3 「日本語教育の参照枠」が目指すもの
- 4 「日本語教育の参照枠」の枠組みとしてCEFRを参考とすることについて

II 「日本語教育の参照枠」について

- 1 構成
- 2 日本語能力観と六つのレベル
- 3 全体的な尺度
- 4 言語活動別の熟達度
- 5 CEFR活動 Can do 一覧
- 6 CEFR方略 Can do・テキスト Can do 一覧
- 7 CEFR能力 Can do 一覧
- 8 漢字の扱いについて
- 9 今後の検討課題

Ⅲ 日本語能力評価について

- 1 「日本語教育の参照枠」における言語教育観に基づく評価の三つの理念
- 2 「日本語教育の参照枠」における日本語能力観及び評価の考え方
 - (1) 日本語能力観について
 - (2) 言語使用者及び学習者の言語能力熟達度を構成する能力
 - (3) 客観的に日本語能力を測定する上での評価の基礎的な概念
 - (4) 多様な評価の在り方と事例
- 3 日本語能力判定のための試験等について
 - (1) 日本語能力の判定試験と「日本語教育の参照枠」の対応関係を示すことの意味
 - (2) 日本語能力の判定試験と「日本語教育の参照枠」の対応付けの手続き
 - (3) 国内の外国語試験と C E F R の尺度との対応付けの事例
 - (4) 試験開発に関する基本的な考え方
 - (5) 社会的ニーズに応える日本語能力判定の在り方について

Ⅳ 参考資料

- 1 話し言葉の質的側面
- 2 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」について
- 3 J F 日本語教育スタンダードについて
- 4 言語能力記述文の作成方法及び検証手法に関するガイドライン
- 5 評価の種類
- 6 日本語の能力判定に係る試験等一覧
- 7 参考文献
- 8 「日本語教育の参照枠」取りまとめまでの沿革
- 9 日本語教育小委員会等における検討状況